



「辻よし子と歩む会」

☎ 190-0154

あきる野市高尾 182-1 佐橋方

電話 & FAX : 042-596-4569

e-mail : kusasigi@nifty.com

共同代表 : 柏倉倫子・青木真知子

HP「辻よし子と歩む会」で検索

小さな声に耳をすまし、大きな力にひるまず！

誠実さに欠けるあきる野市の情報公開

～議会を傍聴して～

12月3日の市議会を傍聴しました。市民の知る権利と情報公開についての辻議員の質問に対する答弁において、副市長の姿勢は「誠実さ」に欠けると感じました。すなわち「市民に対しての誠実さ」です。議会での答弁の姿勢は一議員に対してのみでなく、市民に対しての姿勢だということを、理解していない人はトップに立つべきではありません。また、理解しているのであれば実践していただきたいですが、当日はそう感じられませんでした。

議会の様子は後から動画で確認ができるので観ましたが、副市長や市長に都合の悪い情報は公開されないという懸念は払拭されませんでした。

辻議員が情報公開を請求したのは総務部長から全部課長宛に送られた「情報公開請求の取扱いの徹底について」というメールでした。一部が黒塗りされていたので、辻議員が不服審査請求をして審査会が違法・不当とし、公開されました。

黒塗りの部分は簡単にいえば、「野党」議員からの開示請求にはそれまでどおりではなく副市長と市長に説明のうえ、公開・非公開を判断するよう徹底せよというものでした。審査会が違法・不当と認め、公開になった経緯について、副市長は「まったく問題があったとは思っていない」と言い放ち、自分の誤りを認める姿勢は一切ありませんでした。

不当であったことを問題とっていないなら、今後も、わたしたちが情報公開を請求しても副市長・市長判断であきる野市情報公開条例第9条第5号に該当しなくても黒塗りにされることが大いにあるということです。開かれた、透明な市政がなされてこそ市民は安心できるのに、この答弁では安心できません。誠実な対応がなされず残念です。

(T・Y 五日市地区在住)

議論のない議会

～環境建設委員会を傍聴して～

委員長（自民党志清会）、副委員長（公明党）、5名の委員（自民党志清会3名、共産党1名、くさしぎ1名）で構成される環境建設委員会。今回は武蔵五日市駅前拠点施設の設置・管理に関わる条例の議案が入り、問題点の多いこの条例がどう審議されるのか傍聴した。

辻委員の質問と反対意見で、この条例が市のめざす「市民参加のまちづくり」とはほど遠い、作成の記録もなく詰めの甘い曖昧なものであることがはっきりした。しかし、驚いたことに3名の自民党委員は賛成が前提の簡単な質問だけで「よくわかりました」と席につき、副委員長は「ウェルビーイング（この計画の基本理念らしい）、この言葉が好き。住みやすい街になることを期待して賛成」と…!? くさしぎと共産党の委員が反対したが、賛成多数であっさり可決となった。

国会では去年の選挙で、今までの数によるごり押しの政治をしていた自民党が少数与党になり、少しは議論が見えるようになった。しかし、あきる野市議会では相変わらず議論しない状態が続いている。議論以前に、一人会派の辻議員の発言に対して敬意の感じられない自民党議員の態度を、傍聴の度に目にする。議会の準備に時間をかけ真摯に市政と向き合い続けている彼女に、もう時間だと議長にアピールしたり、これみよがしに大きなため息をついたり、多数派であることであぐらをかいた彼らの傲慢な態度は許せない。それは議会を見守る私たち市民までバカにしているのと同じことだ。

(A・M 小川東在住)



秋川高校跡地と周辺地区のまちづくり

秋川高校跡地のメタセコイア並木は2024年も美しく紅葉した。秋川高校跡地は都有地で、東部に広がる畑と住宅地は民有地だ。この都有地と民有地を併せた広大な土地について、あきる野市は産業（企業）誘致をメインにしたまちづくりを進めようとしている。

私が参加する「あきる野のいまを知る会」（通称・知る会）は開かれた市政を求めている、そのためにはまず市の課題を知り、市民参加による課題解決を市に働きかけていこうと2023年11月に立ち上がった市民グループだが、課題の一つに挙げているのが秋川高校跡地周辺のまちづくりだ。

知る会では2024年12月に現地視察を行った結果、まずは広く市民を対象にした現地視察会および説明会の開催を市に求めていることになった。

これまでの経緯を見ると、様々な市民が陳情等で市民参加を市や都に求めて来たがほぼ採用されていない。都は土地利用を市に一任したため市は検討し、企業誘致の方針を決めた。市および企業誘致賛成の市議たちの思惑は自主財源の確保だ。市の財政逼迫は理解するが、ではなぜ五日市駅前施設の建設費だけで3.5億もかけられるのか？といった疑問も湧いてくる。

私は企業誘致も一つの案として、他の案も俎上に載せて話し合えれば良いと思う。様々な意見を出して、その妥協点を見出すのが民主主義。企業と公共空間（公園など）がバランスよく配置できるような妥協点が見つけられると良い。こういった「市民参加のまちづくり」を、多くの市民が市に求めて行く事が必要だと思う。（I・A 瀬戸岡在住）



無党派
一人会派

辻よし子・プロフィール

1960年生まれ。小学校教員を経て、ボランティアとしてタイの農村教育に関わる。1995年よりあきる野市に暮らす。「川原で遊ぼう会」を中心に市内の環境保全活動に取り組む。3.11以後、脱原発の市民活動を始める。2015年10月の補欠選挙で初当選。現在10年目。夫、次男、ネコ1匹と草花に暮らす。

戒厳令を阻止した韓国市民の力に学びたい

12月3日の韓国の戒厳令には驚いた。「フェイクニュース」かと思った。なぜなら、韓国では軍事政権が長く続いたが、学生・市民の闘いによって民主化が達成されていたからだ。ところが、今回の戒厳令は軍部が主導したのではなく、何と尹錫悦（ユン・ソンニョル）大統領自身が政局を打開するために行ったという。韓国のこれまでの歴史の教訓を踏みにじるとんでもない暴挙だ。

この戒厳令を阻止するために国会に駆けつけた国会議員と市民の連携は目を見張るばかりだった。深夜にもかかわらず大勢の市民が駆けつけて、軍や警察に立ち向かい、議員が議場へ向かうのを助けたのである。67歳の議長が柵を乗り越えて議場へと向かう姿。兵士から向けられた銃口をつかみ「あなたたちは恥ずかしくないの！」と抗議する女性。そして、午前1時過ぎ与党も含めた190人の国会議員が、全員一致で戒厳令解除の決議をしたニュース映像は感動的だった。

民主主義について韓国から学ぶことが多い。テレビのコメンテーターが「親日の大統領が替わってしまうと日韓関係が心配」と本質からずれたことを言っていたが、変わらないといけなのは日本自身だろう。自由と権利は日本の憲法にも書いてあるように「不断の努力」によって勝ち取るものだ。日本は果たしてそれができているだろうか。韓国の民主化運動については映画『タクシー運転手～約束は海を越えて』など、多くの作品がある。それらを観て日本の政治のあり方について考えてみたいと思った。（T・K 草花在住）

「辻よし子と歩む会」

会員募集中！

年会費：1,000円（カンパ歓迎！）

「辻よし子と歩む会」の振込先口座が
会計の個人名に変わります。

<新しい振込先>

ゆうちょ銀行

記号：11340 番号：22119541 名義：原和美

（他金融機関からの振込）

店名：一三八（イチサンハチ）店番：138

普通預金 口座番号 2211954



ハラカズミ